

妙安寺だより 312

テレフォン法話 092-751-6

084 (毎週月曜日に話が変わります)

法華経の解説(2)

序品の中の主なる教えに、「四諦」「十二因縁」「六波羅蜜」が説かれています。

〔序品第一 ② 「 」〕

1・苦 諦=くたい 苦についての真理。この世は苦であるという事実。

苦しみの具体的な事実をしっかりと見きわめること。

2・集 諦=じったい 原因についての真理。苦の原因が煩惱・妄執であるという事実。

この世の苦には、必ず原因(煩惱・執着・欲望)がある。その苦しみが何によって起こるのか、その原因と条件を明らかにすることである。

3・滅 諦=めったい 原因を滅する真理。苦の原因の滅という事実。

無常の世を越え、執着や欲望を断てば、苦はすべて消滅する。苦しみをなくすための在り方、内容をつかむこと。

4・道 諦=どうたい 方法についての真理。悟りに導く実践という事実。

どうすれば苦の原因(執着や欲望)を断つことができるかという方法。その修行方法として八正道を説かれている。

釈尊の悟りの根本内容は、生老病死の四苦に代表される人生苦・人間苦をいかにして脱するか、また苦悩を乗り越えて、いかなる平安な境地を得るか、という点にありました。

その命題を解決する真理として、釈尊は、四苦を見い出されたのです。

仏教は、生きている人間の苦しみを見据えて、一切は、皆「苦」であるという見方を原点にしています。

これは、悲観的に見なすことではなく、果てしなく深い苦しみに、直面しないではおられない人生の有様を真正面から見つめる立場から語られたものです。

私たちの人生には、実に多くの苦しみがあり、いろんな不安や悩みを抱えています。

受験戦争や勉強のことで悩み、失恋したり、家庭や友人との人間関係で苦しんだり、ケガや病気などによる肉体的、精神的な悩み。また、リストラや会社の倒産など、社会的な不安や苦しみや、生きる希望を見い出せないで落ち込んだり、社会の悪や不正を見て、世の中を良くするために、何かをしなければならぬと思いつつ、自分ひとりではどうすることもできないと心を閉ざしてしまいます。

